

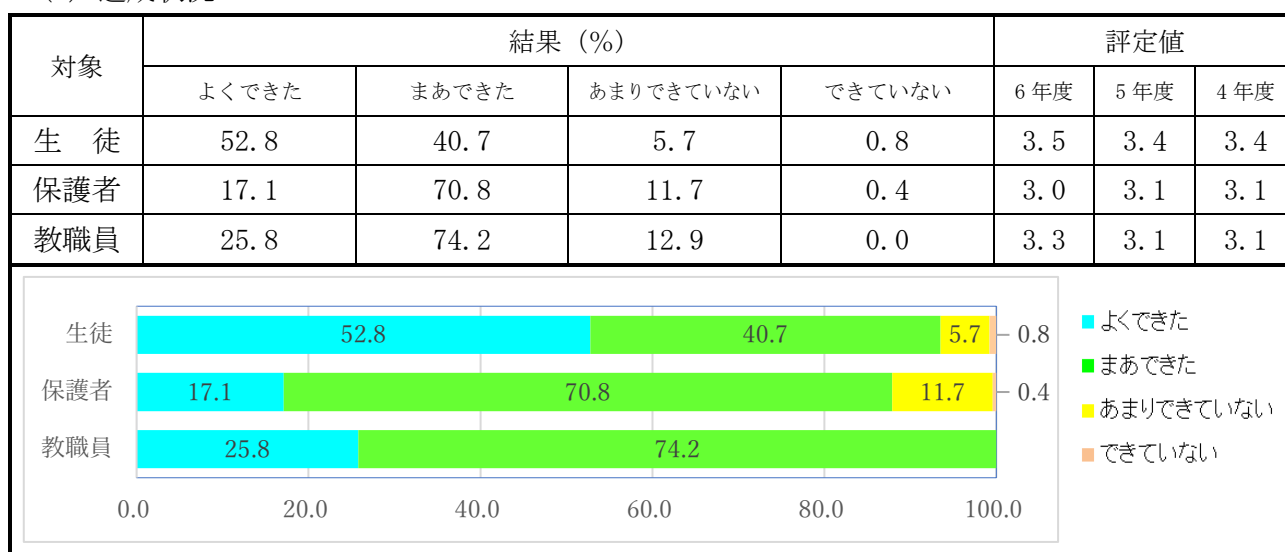
1 学校関係者評価の構成員

学校運営協議会委員（学校評議員）6名、校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主事

2 学校の教育目標の達成状況（概要）

(1) 教育目標 「自分らしさを発揮し、よりよく生きる生徒の育成」

(2) 達成状況



3 主な取組の課題と改善

(1) 令和9年度の新制服導入に向けて、校則の見直しを進めている。その見直しをした内容が保護者に十分伝わっていないことが分かった。また、教職員も生徒に指導する際、校則や決まりについての解釈が統一されておらず、人によって指導が違うという指摘を保護者から受けた。今後、校則の見直しは継続していくため、細かいところまで共有し、意識統一した上で生徒と関わっていくことを確認した。

(2) 保護者は、生徒の学習状況に不安を抱えていることが分かった。学力・学習習慣の二極化に課題が見られるため、スタディサプリの活用や家庭学習の定着方法について、学校と家庭が連携を取りながら進めていくことを確認した。

(3) 教職員が工夫しながら取り組んでいる学習指導が、生徒の学力の向上に成果として表れていないところがある。生徒が「分かる」「学びたい」と感じる授業を実施できるよう、更なる工夫・改善を行っていく。

4 その他―学校運営協議会委員（学校評議員）による意見及び提案―

(1) 学校評価アンケートから

- ① 「家庭訪問は必要ないと思う」という回答意見について、実際のところ教師側の負担はどうか知りたい。実施していない小学校もある。
→ 年度初めに家庭訪問をすることで、保護者と顔を合わせることができ、信頼関係を築く一歩が始まる。子供が不在の時にしか話せない悩みや不安、配慮が必要なことを聞くことが一番の目的である。また、家庭環境や通学路等を確認することで、安全・安心な学校生活を送ることができるように指導・支援をすることができる。中学校では今後も実施していくことを伝えた。
- ② 「学年によって学校生活のルールが違う」「学級によって置いて帰ってよい教材が違う」という回答意見について、保護者が知らないことが多いのではないかとのご指摘を受けた。ジェンダーレスな学校を目指し、新制服導入に向けて校則の見直しを積極的に進めていく中で、保護者にプリントを配布して周知するようご意見をいただいた。また、教職員の校則の解釈が違くと生徒を指導する際に混乱が起こるため、細かいところの共有を確実にしていくことを確認した。
- ③ 「大事なプリントが配布されたらマチコミで知らせてほしい」という回答意見について、賛同意見と反対意見が出た。生徒に配布されたプリントは保護者の手に届かないこともあり、苦勞されているという意見や、マチコミは広告等が掲載されており、利用は考えて使うべきだという意見があった。日常的にマチコミを使用していると、重要度が薄れて見なくなるのではないかとこの意見もあった。西中学校においては、重要案件（不審者情報、自然災害時の連絡、学校行事等に関する連絡など）について活用する方向で今後も進めていくことを確認した。

(2) 生徒指導面について

登下校中の自転車（中学生）と徒歩（小学生）の接触事故について、バイパスの歩道の道路側は自転車、道路から離れた側は徒歩が原則通行することを乃万小学校と共有している。しかし、小学校低学年の児童は突発的に飛び出すことがあり、中学生にはすれ違う際はスピードを落として走行するよう指導をしていることも伝えた。また、日高小学校とは共有していないため、中学校区全体で情報を共有していくことをご指摘いただいた。今度、児童生徒をまもり育てる協議会や駐在所など、地域の方とも情報を共有し、児童生徒の交通安全における指導体制の構築に取り組んでいくことを確認した。

(3) 学習について

「基礎」と「基本」の違いをしっかりと理解した上で学習指導に当たってほしい。「基礎」とはこれまでに習得した学習の土台となるもの、「基本」とはこれから学んでいくことで積み上げていく知識や技能である。特に、若い先生方に理解して使ってほしいとご指導いただいた。職員研修等において伝達していきたい。